

令和5年度 陽東中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

生徒一人一人の健康でたくましい身体、個性を生かした創造的な知性と技能、豊かな心情、強靱な意志、正しい社会連帯意識を養い自己実現を通して国家社会の進歩発展に貢献できる人間を育成する。

- (1) 自ら学び考える生徒（本気） (2) 豊かな心で思いやりのある生徒（勇気）
- (3) 気力あふれるたくましい生徒（元気） (4) 進んで仕事をする生徒（根気）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

国内外の政治・経済・環境・情報など社会の急激な変化に伴い、学校や生徒を取り巻く環境の変化や価値観の多様化が進む中、学校教育は様々な課題を抱え、それらへの対応が求められている。このような中において学校は生徒に確かな学力を身に付けさせ、豊かな心を育むこと、ひいては主体的な判断力をもち、これからの社会をたくましく生き抜くことのできる力を身に付けさせることが最大の使命である。その使命を果たすためには、教職員の専門職としての資質を高めることが重要である。また、規範意識やコンプライアンス意識を高め、生徒、保護者、地域社会に信頼される教職員でなければならない。そして、学校、家庭、地域がそれぞれの教育力を発揮するとともに、一層連携を深め、開かれた学校づくりを推進する必要がある。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 確かな学力の定着を目指して、教育活動のねらいを明確にし、分かる授業の実践と一人一人のよさを生かす活動の充実に努める。
- (2) 生徒が自主的、自発的に活動する場の充実に努め、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに豊かな心の育成に努める。
- (3) たくましく生きるために健康や安全に留意し、自己の目標に向かって挑戦する活動の充実に努める。
- (4) 教職員の共通理解及び情報共有の下、配慮を要する生徒に対して組織体制を確立した指導に努める。
- (5) 温かく潤いのある教育環境づくりに努める。
- (6) 家庭や地域社会及び地域学校園との連携を深め、信頼される学校、地域とともにある学校づくりに努める。
- (7) 教育公務員としての自覚と責任をもちコンプライアンスを遵守するとともに専門職としての資質向上に努める。また、ICTを有効活用した校務の見直しや、組織的な対応を実践することにより、仕事の効率化を図るとともに、勤務時間を意識した働き方を推進する。

〔陽東地域学校園教育ビジョン〕

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ・ 学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進
- ・ 学校や地域の実態に即した教育計画の作成
- 専門職としての研修の推進
- ・ 教育目標実現のための学年・学級目標の設定、具体策の明確化と実践
- ・ 組織体制を確立し連携協力した特別支援教育の推進

【学習指導】

- ・ 一人一人に学ぶ楽しさを体得させる学習指導の工夫（豊かな学び創造プロジェクト）
- ・ 市の方針を踏まえた授業時数の確保（実質的指導時間の確保）
- ・ 学習目標の明確化と振り返り、学習過程の工夫、達成状況の確認
- ・ 個に応じた学習の推進（習熟度別学習の充実等）
- ・ 国・県・市の学力調査等の円滑な実施と結果の分析活用
- ・ 主体的に考え表現できる言語活動の充実
- 自主的な学習習慣の定着を培う指導
- ICT活用の共有化による授業の効率化と学力の向上

- キャリア教育の充実
 - ・ 「道徳」授業の円滑な実施と適切な評価
 - ・ 道徳的实践力の醸成・向上

【児童生徒指導】

- ・ 豊かな心を育てる読書活動の推進
- ・ 認め合い支え合う集団づくりを通じた人権教育の推進
- 福祉・ボランティア活動の推進
 - ・ 潤いのある教育環境づくりの推進
- 基本的生活習慣を身に付けさせる指導の充実
 - ・ スマートフォンや携帯電話及びSNS等の正しい利用法の指導と問題の未然防止
 - ・ 生徒のよさを見取り、自己有用感や自己肯定感を高める指導の充実
 - ・ いじめ等の問題行動の未然防止と早期対応
 - ・ 校内美化意識の高揚と清掃の意欲的な実践

【健康（保健安全・食育）体力】

- ・ 「部活動の方針」に基づく適切な部活動の推進・充実
- 体力の向上を目指す態度の育成
 - ・ 発達段階に応じた薬物乱用防止、性に関する指導の充実
 - ・ 感染症予防と健康管理能力の育成
 - ・ 安全教育の充実・徹底
- 食に関する指導と望ましい食習慣の推進

【特色ある学校づくり】

- ・ 心をたがやす「花いっぱいプロジェクト」の実施
- ・ 学区内公園清掃活動「町も心もぴかぴか活動」
- ◇ 昇降口前・中庭清掃（NFV「ニュー フリーダム ボランティア」）
- ・ 地区体育祭等へのボランティア参加
- ・ ペットボトルキャップ・アルミ缶回収による車椅子寄贈
- ◇ 生き方を考えさせるキャリア教育（ドリームデザイン教室等）

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童生徒の姿	A1 児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」「生徒は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる。」 →生徒肯定回答 85%以上 教職員肯定回答 85%以上	① 主体的に考え表現できる言語活動を充実させ、生徒が「意見を出し合い、共に考える」学び合いの場を設定し、積極的な学習態度を育てる。 ② 生徒の考えを引き出し、深める発問や板書を工夫し、生徒が自分の思いや考えを自由に言える授業の雰囲気づくりに努める。	B	【達成状況】 ・ 生徒の肯定回答は 91.7%で目標を 6.7 ポイント、教職員の肯定回答は 98.1%で目標を 13.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ 生徒が主体的に考え表現できる言語活動を充実させる場の設定を工夫する。 ・ 生徒の考えを引き出すような指導技術を工夫する。

A 2 児童生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 →教職員肯定回答 90%以上	① 道徳科の授業を中心に学校教育活動を通して、「思いやりの心をもって人と接するとともに、人間愛の精神を深めること」を指導していく。 ② 道徳科の授業を通して、「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員として自覚をもって充実した生活を築くこと」を指導していく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 92.6%で、目標を 2.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校教育活動を通して思いやりの心をもつよう指導していく。 ・道徳の授業を工夫するとともに、各学年 1 回、授業公開する。
A 3 児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 →生徒肯定回答 80%以上 教職員肯定回答 85%以上	① 学年・学級目標、学校行事のローガン等を教室に掲示し、それに向けての各自の目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。 ② 目標を提示するだけでなく、定期的に振り返りを実施し、達成できない点を確認する。 ③ 「ドリームデザイン教室」等を実施し、生き方を考えさせるキャリア教育を実践する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 84.0%で目標を 4.0 ポイント、教職員の肯定回答は 94.4%で目標を 9.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教室等の掲示を工夫する。 ・目標の達成状況を確認する。 ・「ドリームデザイン教室」「宮っ子チャレンジウィーク」等キャリア教育の充実を図る。
A 4 児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 アンケートの「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 →生徒肯定回答 85%以上 教職員肯定回答 85%以上	① 家庭科や保健体育科、給食等により健康への意識の高揚に努める。日常生活で感染症予防に努める。 ② 交通安全教室や避難訓練、登下校指導、日々の指導を行い、安全への意識高揚に努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 87.4%で、目標を 2.4 ポイント上回り、教職員の肯定回答は 96.3%で、目標を 11.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・関係教科で健康への意識の高揚を図る。 ・安全への意識高揚を図る。
A 5 児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 アンケートの「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周りとは協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」「生徒は、互いのよさを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 →生徒肯定回答 85%以上 教職員肯定回答 85%以上	① 自分自身を見つめなおし、長所と短所を理解に努め、目標に向かって努力する態度の育成を図る。 ② お互いの性格や意見を尊重し、協力し合いながら、課題解決につながる指導・助言をする。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 87.4%で、目標を 2.4 ポイント上回り、教職員の肯定回答は 92.6%で、目標を 7.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校行事も含めた活動で、生徒が達成感を得られる場の設定をする。 ・生徒間や生徒と教師間のコミュニケーションの充実を図る。

A 6 児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 アンケートの「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 →生徒肯定回答 80%以上	① 英語で伝え合うことの楽しさを実感するために、様々な英語表現を用いた言語活動の場を多く取り入れた英語の授業を実践する。 ② ALTの給食や学校行事への参加などを通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 74.2%で、目標を 5.8 ポイント下回った。教職員は 88.9%で、昨年度より 2.1 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・英語で伝え合うことの楽しさを実感させる。 ・ALTの活用を工夫する。
A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 アンケートの「生徒は、宇都宮の良さを知っている。」 →教職員肯定回答 80%以上	① 各教科の授業で、宇都宮ブランド(郷土料理や大谷石、ジャズ、子育て支援等)について触れる。 ② 郷土の伝統と文化を大切にする態度を育てる内容項目の道徳の授業で、導入や教師の説話等で宇都宮について触れる。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 77.9%で昨年度より 3.3 ポイント向上している。教職員の肯定回答は 83.3%で目標を 3.3 ポイント上回り、昨年度よりも 5.7 ポイント向上している。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の指導の工夫を図り、宇都宮ブランドについて触れる。 ・道徳の授業を工夫する。
A 8 児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 アンケートの「生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 →教職員肯定回答 85%以上	① chromebook 等情報機器の基本的操作方法を習得し、有効に活用する技能を身に付けさせることで、情報活用能力を育てる。 ② 目的に応じた各種辞書・辞典や問題解決のための一般図書資料を積極的に利用する態度を育てる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 79.1%、教職員の肯定回答は 98.1%で目標を 13.1 ポイント上回った。昨年度より 2.2 ポイント向上している。 【次年度の方針】 ・情報機器の基本的操作方法や技能を身に付けさせることで、情報活用能力を育てる。 ・一般図書資料を積極的に利用する態度を育てる。
A 9 児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 →教職員肯定回答 70%以上	① 社会や理科、英語等の授業で、化石燃料などの有限な資源の枯渇に備え、太陽光や風力などの再生エネルギーに目を向けさせる。 ② 新聞記事やニュースなどの情報から、環境問題や災害、事故等を取り上げ、身の回りに起こっている出来事に関心を持たせる。 ③ 教室にポスターを掲示したり、パワーポイントや資料を使って視覚に訴える資料を準備したりして、周知を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 82.1%で、教職員の肯定回答は 75.9%で目標を 5.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・化石燃料などの有限な資源の枯渇、再生エネルギーに関心をもたせる工夫をする。 ・SDGs の 17 の目標に関心をもたせるとともに、新聞記事やニュースなどの情報を取り上げる。 ・ポスター掲示などで周知を図る。

目指す学校の姿	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）の実態に応じて、適切な支援をしている。」 →教職員肯定回答 90%以上	① 特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて適切な対応ができており、今後も継続していくことで、生徒一人一人にとって居がいのある学校作りを目指す。 ② ユニバーサルデザインの重要性を教職員や生徒がより一層理解できるように、共通理解を図る資料等を作成・配布する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 96.3%で、目標を 9.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする生徒について、該当する生徒の現状を詳細に把握するとともに、個別対応の工夫を図る。 ・より多くの生徒が利用できる学校生活について、教職員や生徒が一層理解できる工夫をする。
	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 →生徒肯定回答 90%以上	① 全校集会、学年集会、また学級活動を通して、「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識をもたせる指導をしていく。 ② いじめ根絶集会などの生徒の自治的な活動を支援し、いじめが許されない行為であることへの更なる意識の高揚に努める。 ③ 道徳科の授業を通して、相手の立場や個性を否定する「いじめ」を絶対に許さないという道徳的実践意欲・態度を育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 96.1%で、目標を 6.1 ポイント上回った。 市平均より 0.7 ポイント下回った。 ・地域住民の肯定回答は 100%であった。 【次年度の方針】 ・「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識をもたせる指導をする。 ・いじめが許されない行為であることへの意識の高揚に努める。 ・生徒に「いじめ」を絶対に許さないという態度を育てる。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の生徒を大切にし、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 →生徒肯定回答 90%以上 教職員肯定回答 90%以上	① 家庭との協力関係をより一層強めるために、保護者との電話連絡や家庭訪問をこまめに行い、SC や MS との連携を密にすると共に、市教育センター等の関係機関との連携も強めていく。 ② スタンダードダイアリーの有効活用をより強く推し進める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 95.1%で、目標を 5.1 ポイント上回り、教職員の肯定回答は 98.1%で、目標を 8.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・家庭との連携・協力をより一層強めるための工夫をするとともに、関係機関との連携方法を明確にする。 ・不登校を生まない学級経営の工夫をする。

A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 →生徒肯定回答 85%以上	① 生徒が協力しながら意欲的・主体的に活動でき、達成感や自己肯定感を得られるような場を設定しつつ、特別な配慮を必要とする生徒にも学業指導の充実を図りながら、「居がい」のある学校を目指す。	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 93.9%で、目標を 8.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・達成感や自己肯定感を得られるような工夫をするとともに、学業指導の充実を図る工夫をする。
A14 教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 →生徒肯定回答 85%以上	① 生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ② 個に応じたきめ細かい指導を行い、習熟度別学習やT・Tなど指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 95.6%で目標を 10.6 ポイント上回っており、昨年度より 4.3 ポイント向上している。 【次年度の方針】 ・生徒が学習意欲を喚起する工夫をする。 ・個に応じたきめ細かい指導を行い、基礎・基本の定着を図る。
A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 →教職員肯定回答 80%以上	① 職員間の共通理解はもとより、外部関係機関及び地域ボランティアとの連携もさらに強めることで、業務の効率化を図っていく。 ② 教職員全員が、同じベクトルで目指す学校像に向かって業務が進められるよう、学校マネジメントシステムを生かしたPDCAサイクルを回していけるようにする。	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 87.0%で、目標を 7.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・各校務分掌業務の進捗状況を把握し、状況に応じて助言するなどの進行管理を行うことにより業務の効率化を図る。 ・教職員全員が、学校教育目標達成に向けて業務が進められるようマネジメントする。
A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 →教職員肯定回答 70%以上	① 業務の効率化を図るとともに、業務に必要感をもって取り組めるよう、業務の第一義をしっかりと確認しながら業務に当たる。 ② 「リフレッシュデー」の確実な実施や各自のタイムマネジメント向上など、意識改革に取り組んでいく。	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 64.8%で、目標を 5.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・各校務分掌の責任者は校務分掌内の教職員が効率的に業務を進められるよう役割分担を明確にする。 ・勤務時間を意識するような意識改革を工夫するとともに、業務の効率化における実践例を周知する。

A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」→教職員肯定回答 90%以上	① 義務教育9か年で目指す子供像を明確にし、基礎期、活用期、発展期それぞれの到達目標を確認しながら、「重点化を図る指導内容」について、小中の情報交換を十分にいき、具体的な指導を積み重ねていく。 ② 小中協働の意識や小中一貫教育への参画意識を高めるために、分科会代表者会議及び運営委員会で、重点課題や具体策の確認などを話し合う。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 87.0%で、目標を 3.0 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・基礎期、活用期、発展期における到達目標を確実に確認するとともに、小中の情報交換を十分に行う。 ・小中協働の意識や小中一貫教育への参画意識を高めるための工夫をする。
A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」→保護者肯定回答 80%以上	① 地域人材・学生ボランティアの効果的な活用を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。 ② 家庭・地域・企業等と連携しながらキャリア教育や命の授業等における専門性の高い外部講師による講話等を実施する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定回答は 87.5%で、目標を 7.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・特色ある教育活動を展開するための工夫をする。 ・家庭・地域・企業等と密な連携ができる工夫をするとともに、参画しやすい取組を進める。
A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」→教職員肯定回答 90%以上	① 安全点検の確実な実施と修繕に努める。 ② 清掃美化コンクールの実施により、清掃活動状況の改善が図られてきたので、今後も継続していく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 98.1%（昨年度より 8.3 ポイント上回る）で、目標を 8.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・危険箇所の早期発見に努める。 ・清掃活動への意欲を高める工夫をする。
A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 →教職員肯定回答 80%以上	① ICT を活用するための環境を整えるとともに、適切に活用した学習活動の充実が図れるよう指導力の向上に努める。 ② ICT を活用した学びの場を設定し、分かる授業を実施する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 90.7%で、目標を 10.7 ポイント上回っているが、市の中学校の平均より 2.2 ポイント、市の小中の平均より 3.5 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・ICT を活用するための環境を整える。 ・授業内容を工夫し、計画的に ICT を活用した授業を実施する。

本校の特色・課題等	B 1 児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 アンケートの「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」 →生徒肯定回答 90%以上	① 生徒会執行部、生活安全委員会等と協力し、あいさつ運動の充実を図り、その定着を目指す。 ② あいさつと返事がすべての集団活動の基本であることに気付かせ、学校生活のあらゆる場面での習慣化を目指す。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 96.1%で、目標を 6.1 ポイント上回った。 ・地域住民の肯定回答は 100%で、昨年度より 16.7 ポイント上回り、また、市平均より 7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会など、あいさつ運動の充実を図る。 ・あいさつ等が学校生活の基本であることを再認識させる。
	B 2 児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 アンケートの「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 →生徒肯定回答 85%以上	① 学年委員会などと協力し、5分前行動、3分前着席など、時間に余裕を持って行動できるよう働きかけていく。また、教師自らも率先して行動する。 ② 生活安全委員会などと協力し、更なる規範意識の育成やマナーの向上を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 96.1%で、目標を 11.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会活動が中心となり、きまりやマナーを守ろうとする態度を培う。 ・生活安全委員会が中心となり規範意識の向上を図る。
	B 3 教職員は、「学校生活アンケート」や教育相談などを定期的実施し、生徒の悩みに適切に対応している。 【数値指標】 全体アンケートの「教員は、イヤな思い調査や教育相談などを通して、生徒の悩みに適切に対応してくれる。」 →生徒肯定回答 90%以上	① 日常生活全般において校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談や「学校生活アンケート」（いじめ調査）を活用し、いじめへの即時対応や早期発見・未然防止に努める。 ② 「いじめゼロ強調月間」と関連して学級活動での話し合い活動の推進を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 93.3%で、目標を 3.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・各種調査等を活用し、いじめへの早期発見・未然防止に努める。 ・学級活動での話し合い活動の推進を図る。
	B 4 生徒は、口腔の清潔（歯みがき・ぶくぶくうがい等）に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、歯みがきやぶくぶくうがいを実施し口腔の清潔に努めてる」 →生徒肯定回答 80%以上	① 担任教諭による日常指導や、生徒会保健委員会による定期的な広報活動や歯みがき・ブクブクうがいチェックを行い、衛生習慣を定着させる。 ② 地域学校園の取組（カラーテスター使用の歯みがきチェック等）を行い、家庭での丁寧な歯みがきの習慣化を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 84.8%（昨年度より 27.3 ポイント上回る）で、目標を 4.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・歯みがきチェック等を充実させ、衛生習慣を定着させる。 ・地域学校園で連携を図る工夫をする。

B 5 生徒は、体育の授業や体育的行事、部活動等に意欲的に参加し、体力向上に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、体育等の授業や体育的行事、部活動に意欲的に参加し、体力向上に努めている。」 →生徒肯定回答 70%以上	① 体育の授業で補強運動等において工夫を凝らすとともに、生徒が意欲的に体育的行事や部活動等に参加できるよう、事前指導の充実を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 87.4%（昨年度より 6.2 ポイント下回る）で、目標を 17.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・体育の授業や体育的活動の充実を図る。体育的行事では生徒主体で計画・活動する場面を設定する。 ・地域学校園で連携を図り、「運動好き」の児童生徒の育成に努める。
B 6 教職員は、定期的に登校指導や下校指導を行い、交通事故防止に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、定期的に交通指導や登校指導を行い、交通事故防止に努めている。」 →生徒肯定回答 95%以上 →教職員肯定回答 95%以上	① 年度初めの計画通りに、通学路において立哨指導をする。 ② 学校行事の後に集会を開き、全校生徒に注意喚起をする。また、学年集会や学級においても「自分の命は自分で守る。」指導を行う。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 95.1%で、目標を 0.1 ポイント上回った。また、教職員の肯定回答は 94.4%で、目標を 0.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・通学路において立哨指導をする。 ・全校生徒に注意喚起をする。また、学年集会や学級においても「自分の命は自分で守る。」指導を行う。
B 7 生徒は、校内外のボランティア活動へ積極的に参加し、自主性・主体性を身に付けるよう努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、校内外のボランティア活動に積極的に参加し、自主性・主体性を身に付けるよう努めている。」 →生徒肯定回答 80%以上 →教職員肯定回答 80%以上	① 生徒が校内のボランティア活動や、地区体育祭・文化祭等の行事へ参加しやすくなるよう情報提供を促すとともに、家庭・地域・企業等との連携を図り、生徒のボランティア精神を育成する。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 59.0%で、目標を 21 ポイント下回り、昨年度より 17.5 ポイント下がってしまった。教職員の肯定回答は 87.0%で、目標を 7 ポイント上回り、昨年度より 19.7 ポイント向上した。 【次年度の方針】 ・ボランティアの意義を理解させ、校内外のボランティア活動への参加をしやすくなるよう情報提供をする。 ・中学生が身近にできるボランティア活動を考えさせる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける

【学校運営】

- ・特別な支援を必要とする生徒について、該当生徒の現状を詳細に把握するとともに、個別対応ができた。
- 小学校への乗り入れ授業が実施できたことで、小中連携を意識することができた。
- ・小6中学校訪問で、児童へ丁寧な説明や興味・関心が高まる授業、部活動を実施することができた。
- ・各校務分掌では、効率的に業務を進められるよう役割分担を明確にする必要がある。

【学習指導】

- 地域学校園の「学習の約束」や各教科における学習のルールなど学習規律の徹底を図るために指導を継続していく。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組の一つとして、教職員の ICT 活用技術の向上に努めるとともに、分かる授業の展開と個に応じたきめ細かな指導を行い、生徒の学力向上を図る。

- ・ボランティア活動の意義を理解させ、総合的な学習の時間やNFV（ニューフリースダムボランティア）活動、地域の小学校との連携を図りながら多様な活動の場の提供に努め、生徒の自発性を育てる工夫をしていく。

【生活部会】

- ・基本的に継続していく。立哨指導について、放課後の立哨指導に力を入れ、朝の立哨指導は取りやめてもいいのではないかという意見があった。理由は勤務時間外であること。朝の通勤ラッシュで担任が朝の会に間に合わないこと（遅刻の確認）。同様に車・自転車・徒歩の往来が激しく、立哨指導することが事故の原因になるのではないかということ。以上の３点があった。

【健康（保健安全・食育）体力】

- ・新体力テストの分析をもとに、弱点の補強運動を考察・実践し体力の向上に向けて指導をしていく。また、生徒が主体的に体育的行事や部活動に取り組めるよう教職員間で連携を図り計画的に指導をしていく。
- ・美化委員会活動において、清掃強化週間や美化コンクールを実施することで、環境を整えることができた。今後は特別教室も含めて、生徒自ら清掃に取り組めるような指導を継続していく。
- ・「花いっぱいプロジェクト」の実施により、蓮やパンジーの栽培等、学校内の環境づくりに努めることができた。
- ・安全点検を行い、学校設備が原因になるケガや事故がないよう努めていくことが必要。しかし、施設の老朽化が進んでおり、修繕が必要な箇所がある。今後も確実に修繕していくことが必要となる。
- ・給食後の歯みがき・ブクブクうがいの習慣化のため、教職員全体での日常的な指導や、生徒保健委員会の啓発活動を継続していくことが必要。また、感染症流行時の状況に応じて、引き続き歯みがきの仕方について検討していく。

6 学校関係者評価

- ・「業務の効率化」では、教職員が地域の人的・物的資源を有効活用するため、地域コーディネーターに要望が迅速・詳細に伝わり、資源を有効活用でき、学校の働き方改革に繋がるシステムの構築が必要である。
- ・「ボランティア活動」では、生徒にボランティアの意味や意義を再確認し、よく理解させる必要がある。また、コロナ等の感染状況に注視しながら、コロナ禍前のような、地域から中学生にできるボランティア活動を要請する必要がある。
- ・「あいさつ」では、中学生や高校生が自然に挨拶する姿が多くみられるので、今後もあいさつの継続をしてほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける

昨年度と比較し、全体的に評価が上がっており、次年度も引き続き各種取組を行いながら更なる充実を図るとともに、ボランティア活動や小中一貫教育に関する取組について地域・小学校と密な連携を図りながら取組を進める。

○義務教育９年間で育成する目指す子供の姿を意識しながら、生徒が自分の成長を確かめる機会をつくるなど、キャリア教育の視点に立った指導の充実を図る。また、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を、学校だよりやHPなどで積極的に発信する。

- ・「指導と評価の一体化」がさらに図られるよう、教科部会で検討を重ねていく。
- ・特別な支援を必要とする生徒の把握と共通理解の下、ユニバーサルデザインの視点に立った授業や活動を実践する。
- ・「読み聞かせ」や「家庭科ミシンボランティア」など、多くの活動に地域の教育力を生かす取組が定着している。引き続き、地域人材を活用した学習支援活動を充実させ、地域とともにある学校づくりの推進を目指すとともに、地域で必要とするボランティアを生徒に紹介する。
- ・不登校傾向や不適応傾向の生徒が増加しており、特別な配慮を要する生徒に対して校内研修により周知徹底を図る。また、生徒の特性を理解し適切な支援を行うとともに、関係機関との連携強化を図る。
- ・学校における働き方改革に向けて、教職員の更なる意識改革など、業務改善に積極的に取り組む。